

リンゴわい性台 1 年生苗木の 栽植時の心枝切り返し高

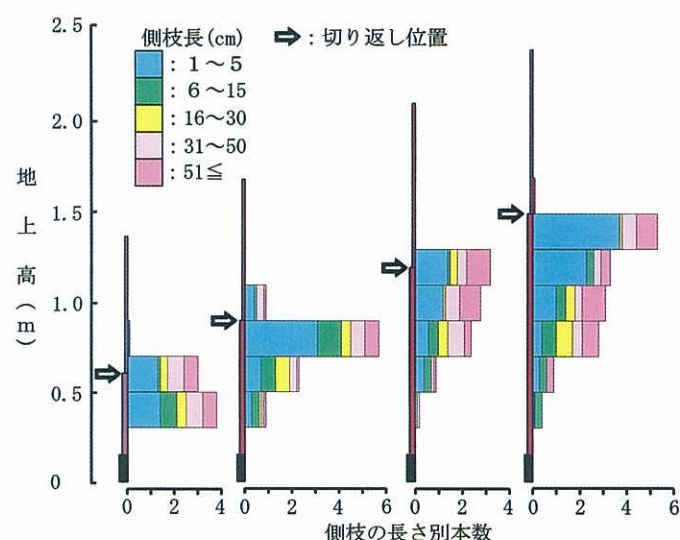
研究のねらい

これまで、わい性台樹 1 年生苗木を栽植した時の心枝の切り返しは、従来のマルバカイドウ台開心形樹に準じて地上90cm付近の高さで行っていた。そこで、わい化栽培の標準的な樹形である細がた紡錘形に適した切り返しの高さを明らかにする。

研究の成果

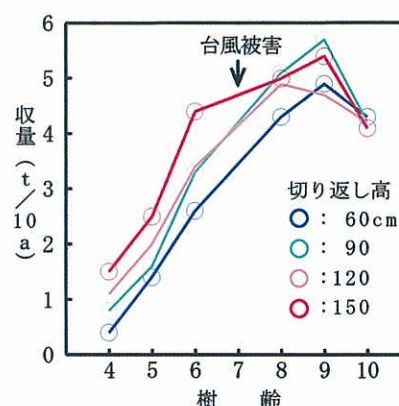
1 年生苗木 ‘ふじ’ / M.9A を用い、栽植時に地上60、90、120及び150cmの高さで心枝を切り返した結果、心枝を高い位置で切り返した木ほど、勢力の弱い側枝が多く発出し、樹冠の形成が早く、初期収量も勝っていた。

ただし、栽植時に地上150cmの高い位置で心枝を切り返すと、枝が出にくい品種では下枝が不足する懸念があったので、切り返しは120cmの高さで行うことを勧めた。



第1図 栽植時の心枝切り返し高が側枝
(新梢) 発出に及ぼす影響

注：栽植 1 シーズン目秋の状況で 7 樹平均。



第2図 栽植時の心枝切り返し高と
10 a 当たり収量との関係

発表資料

1. 栽培部 (1994). わい性台りんご苗木の栽植時の根量及び切り返しの高さ. 平成 6 年度指導奨励事項・指導参考資料：52-53.
2. 外崎武範 (1993). リンゴ苗木の栽植時の切り返しの高さとその後の生育及び収量. 青森農業 44 (3)：40-42.